

○議長（神山章憲）

次に、8番稲員信幸君の登壇を求めます。

○8番（稲員信幸）

8番稲員でございます。私は、この3月議会において2項目の質問通告をいたしております。第1項目として、土木工事の26年度への繰り越しの件であります。かつて経験したことのないと評された九州北部豪雨災害以来、急ピッチで復旧工事が進められている中、今年度は国からの特別大型補正が生まれ農政課を含め、土木費が大きく膨らんでおります。次年度への繰り越しを余儀なくされることはいたし方のない現状であると思っております。その内訳なり、あるいは実情をお尋ねしたいと思います。

次に、昨年10月運行を開始されたふれあいタクシーについてであります。この3月で約半年を迎えますが、登録者数、運行状況、利用者数等、現状と今後の課題についてお尋ねをしたいと思います。

以下、質問席にありますが、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（神山章憲）

町長。

○町長（渡邊元喜）

稲員議員の質問の中の平成25年度予定工事の進捗についてでございますが、本年度は国の大型補正1号分により、工業団地内の町道及び藤田線の舗装修繕、側道西線の橋梁を含む道路改良、町内4橋梁の修繕について、前倒しで工事を実施しているところです。

本年度は特に、八女県土及び筑後農林より発注された県工事も集中しており、人手不足や資材、製品不足等の状況でありますので、無理に入札を行ったとしても、年度内竣工しないことや、既に着手している工事への影響も予想されましたので、今回、次の事業について、繰越明許費補正をお願いしております。

道路改修事業費につきましては、井手の原支線ほか3路線分で8,000千円、活力創出基盤交付金事業は、吉常日吉線、久泉日吉線の2路線で23,000千円、狭あい道路整備等促進事業は、山仁田線、太田松ノ木線の2路線分で32,000千円、防災・安全交付金事業は、国の大型補正対象であり、増永橋、下吉川原橋の2橋分で53,500千円、河川改修事業費は、東福寺川分で580千円、都市再生整備計画事業は国の大型補正対象であり、久泉野間線における排水路整備分で60,000千円、公共土木施設単独災害復旧費は、尾山谷川ほか3カ所分で5,243千円となっております。以上の工事請負費の総額は182,323千円でございます。

次に、ふれあいタクシーの状況についての質問でございますが、平成25年10月1日、運行開始したふれあいタクシーの利用状況につきましては、2月末延べ利用者数2,634人、1日当たり利用者26.6人となっております。毎月、新規の利用者は増加傾向にあります。しかしながら、25年度、この年度は平成25年10月1日から平成26年9月30日までを年度としております。25年度の1日当たり利用目標値50人に対し、53%の利用実績となっております。事業の取り組みにつきましては、平成25年7月より運行開始に伴う事前説明会を実施し、

利用案内パンフレット及び利用案内ビデオなどを作成し、民生委員会、地域老人会、サロン事業等を通じて幅広い啓発活動を行っている状況でございます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（神山章憲）

8番稲員信幸君。

○8番（稲員信幸）

この通告をいたしました後に、議案書をいただきました。また、委員会がございまして、二度手間になるかもわかりませんが、説明を質問に対してはお願いしたいと思います。

毎年、土木関係については各行政区長からかなりの件数が上がってきておると、要望が上がってきておると、150件ほどあったのではないかというふうに思いますが、この大型補正予算である程度消化ができるもんだと思っておりましたが、その辺についてはどうでしょうか。建設課長。

○議長（神山章憲）

建設課長。

○建設課長（竹下勝博）

平成25年度に採択いたしました地元要望については、早目に維持修繕などは実施しておりました。ただ、道路改良等、やはり用地に係る分についてはどうしても町計画事業であったり、また、用地に係る分についてはやはり若干、翌年度に繰り越す状況もございます。ただ、26年度の要望事業における、要望件数における採択については、鋭意、緊急性などを考慮しまして、約5割程度の採択率というふうに捉えておりますけど、十分その辺は、あくまで緊急性を鑑みた、効果等を鑑みたところの採択であるということで、また、3月議会、予算をいただいた後には、区長さんへまた通知をするように予定をいたしております。

以上でございます。

○議長（神山章憲）

8番稲員信幸君。

○8番（稲員信幸）

この大型補正、緊急に出た場合、25年度中に竣工をいたすということの条件を説明に出ておりましたように、前、委員会です。その辺についてはいかがなものでしょうか。

○議長（神山章憲）

建設課長。

○建設課長（竹下勝博）

先ほど町長の答弁の中で冒頭に国の大型補正1号分、いわゆる24年度の繰越分からの25年度へ繰越分の事業については、今、やはり、一定工業団地内の舗装修繕等はおかげでというか、ほぼ完了しつつございますが、やはり詳細な設計が必要であった橋梁工事を含む改良につきましては、余り余裕がない状態ではございますが、鋭意、いわゆる工事、安全

の確保も含めましたところで工事は継続して進捗している状況ではございます。

以上です。

○議長（神山章憲）

8 番稲員信幸君。

○8 番（稲員信幸）

繰越額、あるいは繰越件数についても、今までかつてないようなことになっておると思いますが、26年度、通常に戻った場合に、その影響は出ないものでしょうか。

○議長（神山章憲）

建設課長。

○建設課長（竹下勝博）

26年度へ繰り越す分が先ほど町長答弁の中で行った分でございますが、継続していた、いわゆる道路改良事業等もございますので、今、用地交渉等も行っている路線もございませぬ。それで、地元要望事業については先ほど述べたとおりでございますので、いわゆる26年度もやはり能率よく、とにかく発注を進めていくと、計画的にですね、そのことだけが与えられた使命というふうに考えております。

以上です。

○議長（神山章憲）

8 番稲員信幸君。

○8 番（稲員信幸）

効果は耳にすることですが、工事単価が上がっておると。それから、工事業者、あるいは人手が不足しておると、それから資材入手困難、今、町長の答弁にもありましたように、そういうことが耳に入ってくるわけですが、規模の小さい工事、あるいは金額の少ない工事については、入札を余りしたがないというふうなうわさも入ってきております。その辺についてはどうでしょうか。

○議長（神山章憲）

総務課長。

○総務課長（栗原福裕）

議員おっしゃるように、人手不足、それから資材等の不足というふうなことで、国等からもそういうふうな部分の通知もあっております。また、国においては、この間から事故繰り越しの要件を緩やかにするというふうなことで通知も来ているところです。ですが、うちのほうは、ここに掲げたとおり、明許繰り越しのほうで行うようにしておりますので、事故繰り越し等はありません。

それから、入札につきましては、うちで今年度実施している入札については、不落というふうな状況もございませんし、来年度も契約事務審査委員会に諮りまして1,300千円以上の工事につきましては予定どおり入札で執行をしていくということで考えているところでございます。

○議長（神山章憲）

8番稲員信幸君。

○8番（稲員信幸）

この十数年来、土木費というのは、うろ覚えですが、年間45,000千円とかその辺で推移してきておったと思いますが、今年度はどうか、2倍近くに膨れておるんじゃないかという気がしております。建設課、あるいは農政課、担当課においては非常に大変だろうと思います。激励の意味をもって、叱咤激励、叱咤は外したほうがいいんじゃないかと。激励の意味で質問をいたしました。急いで事を推進するよりも、次年度へ繰り越すことにより、より精度の高い、着実な設計や工事ができるようにお願いするものでございます。

また、繰越分については、地元や、あるいは関係者へ十分な説明が行われますようお願いをしたいと思います。

次に、ふれあいタクシーについてであります。私の感覚、あるいは意見からすれば、これはサービス事業をやって収益の上がるような事業ではないと思います。しかし、大きな赤字負担になるようなことはやはり極力避けねばならないと思います。そういう点で、運行状況、あるいは乗客の数とか、今示されましたが、今後の推移についてはいかがなものでしょうか。

○議長（神山章憲）

商工観光課長。

○商工観光課長（山下壽弘）

ふれあいタクシーの今後の推移、目標でございますけれども、先ほど町長のほうから答弁がございましたように、平成25年度においては1日当たり50人、年間ベースでいきますと1万2,000人を目標としております。次年度の26年度については1万3,000人、それから27年度で1万5,000人まで持っていけたらいいなというような計画でおるところでございます。

以上です。

○議長（神山章憲）

8番稲員信幸君。

○8番（稲員信幸）

私が住んでおる太田地区ですが、余り見かけないという実情だろうと思います。必要なところは必要であって、なかなか中広地区には、例えば、3号線に近いところでは余り必要性が今のところないような気がいたします。しかし、これはサービス事業、必ず必要なわけですが、以前は堀川バスに補助が6,000千円、6,500千円ですか、ぐらいあっておったと思います。それにかわる事業ですが、それに近いぐらいの補助で推移できればという気がしておりますが、その見通しはお願いできますか。

○議長（神山章憲）

商工観光課長。

○商工観光課長（山下壽弘）

堀川バスの助成事業につきましては、町内の運行分について5,000千円ということで助成を行ってまいりました。オンデマンドのバス事業については、初期投資とランニングコストで19,000千円程度、現在かかっております。しかしながら、この費用については、緊急雇用の臨時交付金を利用させていただいておりますので、初期投資と平成25年度分のランニングコストについてはほぼゼロということで今推移をしてきております。今、御指摘の次年度以降の経費の問題になろうかと思っておりますけれども、当面の収支計算として、全体の事業費の中で収支率を24%ぐらいに持っていけば、当然、黒字にはなりませんけれども、行政の負担としては適当というか、妥当であろうというような数字になってこようかと思っておりますので、また、そのほかに次年度以降については運行の距離に対して運輸局のほうから国庫の補助が出てまいりますので、それで幾分かの穴埋めはできると思っておりますので、19,000千円から運行収入から国庫補助金を差し引けば15,000千円程度の単費の支出になってこようかと思っております。収支については当然、黒字にはなりませんので、利用率を上げていけば、当然、そこら辺の費用対効果については生まれてくると確信をしておるところです。

以上です。

○議長（神山章憲）

8番稲員信幸君。

○8番（稲員信幸）

今説明があった、十分理解できますが、しかし、今後ある程度採算がとれるような、近づくようなことを考えなければいけないと思っております。我々にできること、例えば、登録者をふやす、利用者をふやすということについてのPR等は今後どういう状況でしょうか。

○議長（神山章憲）

商工観光課長。

○商工観光課長（山下壽弘）

啓発活動においても、先ほど町長のほうから申し上げますように、民生委員会とか各行政区の老人会、サロン事業等を対象に、当然、推進事業は今後も展開していくわけがございますけれども、25年の12月にデマンドが始まる前に意向調査ということでアンケート調査を実施しております。その中で、今後、広川町においてバス事業が改善されれば利用されますかという問いに、3,900名のうち約12%程度、四百数十名になろうかと思っておりますけれども、その方たちは必ず利用をするというアンケートの結果が出てきております。

ですから、先ほど言いますように、今の段階では幅広い事業の啓発活動ということで行っておりますけれども、今後の事業の展開につきましては、今言う四百数十名の、本当に潜在的な利用者を草の根的にマンツーマンで事業の推進をしていくということで利用者の確保、定着をしていかなければならないのかというふうに考えておるところです。

以上です。

○議長（神山章憲）

8番稲員信幸君。

○8番（稲員信幸）

我々団塊世代もいずれはお世話になるかも知りませんので、ぜひ頑張って、ふれあいタクシーについては進めていっていただきたい。これまた激励の意味で質問をいたしました。

以上で終わります。